

○政務活動（行政視察・研修）報告書

政務活動実施状況

会派名 (参加者)	公正会・市民の声連合 (沢田広志、小黒弘、武田真)
視察・研修名	「上川北部医療連携推進機構」の運用状況等について（士別市、名寄市）
視察・研修の 目的	名寄市・士別市を中心とした「上川北部医療連携推進機構」は、地域医療連携推進法人の先進事例として注目されている。そこで、同機構の運営や取組を調査・意見交換し、本市の医療連携の方向性を検討する資料とする。
日時	令和7年11月11日（火）～12日（水）
視察研修の 概要	<p>○視察先： 上川北部医療連携推進機構（事務局：名寄市立病院内）及び士別市立病院</p> <p>事前に共有した質問事項に基づき、同機構及び士別市立病院の担当者より以下の項目について詳細な説明を受け、質疑応答を行った。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1：設立の経緯と背景： 医師不足や経営悪化に対し、単独病院での維持限界をどう乗り越えたか。</li> <li>2：法人の運営体制： 参画自治体間の役割分担と意思決定の仕組み</li> <li>3：事業内容とその効果： 共同購入や医師派遣調整等による具体的メリット</li> <li>4：地域住民への影響： 連携強化による医療サービスの質と安心感の維持</li> <li>5：法人化によるメリット： 行政組織から独立した運営による柔軟性と効率性</li> <li>6：現在の課題と今後の展望： 運用開始後の新たな課題と持続可能性</li> <li>7：合意形成プロセス： 市民、議会、医療従事者との信頼関係構築と理解促進の手法</li> </ol> <p>○調査の結果</p> <p>上川北部地域での取り組みは、複数の自治体が「地域医療を守る」という共通の危機意識を持ち、強固な信頼関係のもとで広域連携を実現させている点が最大の特徴であった。</p> <p>自治体病院の経営難は全国共通の課題であり、本市が属する中空知地域においても、将来的に同様の広域的な連携・統合が有力な選択肢の一つになり得ると考える。</p> <p>【今後の議会活動への反映方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域医療の維持策： 視察で得た「広域連携」のモデルを参考に、砂川市立病院の持続可能な運営体制について提言を行うための前提知識の整理を進める。</li> <li>・合意形成のあり方： 大きな変革には市民や議会の理解が不可欠である。上川北部の事例にならない、透明性の高い情報共有と丁寧な合意形成プロセスの重要性について提案が可能となった。また、中空知地域全体の医療体制維持に向け、他自治体との連携の可能性について議論を深めていく。</li> </ul>

※視察研修の概要には、視察研修先等を含め記載のこと